

製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
— フロント、そしてさらにそのもっと先にあるもの —

株式会社ジョンクエルコンサルティング
代表取締役 落合 以臣

Keywords

新たな発見、強く前進、世情を俯瞰、あるべき姿、奮起、効率化、起死回生、日本・世界を牽引

2012年も師走に入りましたが、皆様にとりまして今年はいかがでしたでしょうか。今年、EU域内諸国の経済破綻の危機、消費税法案可決に至るまでの道のり、尖閣列島の問題、暮れにさしかかっていた衆院解散総選挙など、いろいろな出来事がありました。しかしながら、むしろ我が国は数々の未曾有の危機を乗り越えながら、確実に新たな発見をして強くなってきたと言っても過言ではないと思います。ところが、大きな視野で俯瞰しますと、ここ10年の企業運営は財務を中心とした戦略に偏り、リスクのあるものへの積極的な展開を敬遠してきたために、守りの姿勢になってきたと言えます。この結果、いつの間にか前に向かって強く前進し、勝つことの喜びを糧とすることを忘れてしまったのか、あるいは勝つことに負けてしまったのではないのでしょうか。企業は前へ進めるための幾つかのエンジンを持っていますが、特にここに来て企業本体の主力エンジンに火をつけることよりも付属的なエンジンをこまめに起動することに力を注いできたため、主力エンジンがすでに冷えつつあると言ってもいいかも知れません。

こうしたことを鑑みますと、冷えつつある主力エンジンに火をともしするためには、少なくとも3年～5年先の世情を俯瞰したうえで、企業の進むべき方向性を持つことが必要と思います。それは、顧客ニーズの先取り、海外の最先端企業の動向を伺うことなども考えられるでしょうが、そのもっと先にあるもの、つまり、企業自身の“あるべき姿”を描き出すことではないでしょうか。この“あるべき姿”を構築することができれば、企業特有の新たな市場を作ることもできるはずです。また、日本企業の強さは創意工夫を加え、自らの新たな市場を創造で作ってきたことでした。こうしたことが、日本を牽引するひとつの求心力となって、日本から世界へと展開し得る原動力となり、これが本当のグローバルイノベーションを形成するはずです。かつてGE (General Electric) が、エジソン生誕100年を記念して掲げた「エジソンに戻ろう」は、見事にGE自身のあるべき姿を明確にし、その結果、全社員のDNAを奮起させ新規製品の発掘、効率的な製品開発へと連動し起死回生を果たしたことは、時が過ぎても我々にとりましてよいお手本となるはずです。

今一度、名だたる企業においては、日本そして世界を牽引するために、冷えつつある主力エンジンに火をともしことを真剣に考えてもいいのではないのでしょうか。そうすれば、かつての日本企業の強さを取り戻し、バランスと友愛を持って世界へ発信することができるのではと思います。この *JQ International Review* が、愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。

今年も余すところわずかになりました。どうぞよいお年をお迎えくださいますようお願いいたします。そして、2013年は皆様にとりまして、さらによい年になりますように頑張っていきたいと思っております。
